

北朝鮮との 『平和共存』は可能か

朝鮮半島情勢を展望するとき、米朝関係の展開がその行方を大きく左右しよう。しかしながらトランプ政権一期目の米朝関係とは異なり、二期目では「北朝鮮の非核化」を重要な交渉アジェンダとすることは考えにくい。北朝鮮はすでに核保有国となったことを自認し、米国も昨年11月に発表の『国家安全保障戦略（NSS）』では「北朝鮮の非核化」に触れなかった。北朝鮮の非核化という目標から、かなり後退してしまっているのが現状だ。北朝鮮の核をめぐる問題とは、突き詰めれば米朝の信頼関係の構築如何にかかってくる。本シンポジウムでは、朝鮮半島をめぐる安全保障環境について周辺国それぞれの視点も交えながら、北朝鮮との「平和共存」は可能なのか考える。

日時

2026年7月28日(火)

14:00～16:30 (13:40開場)

会場

グランシップ 10階 1001-1室

(JR東静岡駅南口隣接)

静岡市駿河区東静岡2丁目3番1号

主催

静岡県立大学現代韓国朝鮮研究センター
一般財団法人霞山会

参加費

参加無料・事前申し込み不要

14:00 開会

挨拶： 六鹿 茂夫 霞山会常任理事

14:05

基調報告： 伊豆見 元 東京国際大学特命教授

14:20

報告： 阪田 恭代 神田外語大学教授

磯崎 敦仁 慶應義塾大学教授

梅本 哲也 静岡県立大学名誉教授

堀田 幸裕 霞山会主席研究員

15:20

総合討論

司会： 小針 進 静岡県立大学教授

16:25

総括： 奥蘭 秀樹 静岡県立大学教授

16:30 終了